

Department of Education alumni association

あすなろ

2019 No.41



発行
弘前大学教育学部同窓会
相馬正栄

所在地 青森県弘前市文京町1
TEL 0172(39)3314 (学部)



教育学部、次の時代へ

教育学部長 戸塚 学

「令和」という新しい時代が幕を開け、これに纏わる天皇家の儀式が一段落した今日、いよいよ新しい時代が本格的に始動します。

「令和」がどういふものになるのかは予測できませんが、様々な社会環境の変化への対応が迫られる時代であることは容易に想像できます。例えば、教育界に目をやりますと、次世代の人材づくりに関連して「SDGs」や「Society5.0」への対応といった横文字が並びます。特に、「Society5.0」への対応については、すでに学校においても関連した教育プログラムが展開されているところです。

さて、本年度大学は70周年を迎え6月に式典を行いました。一方、平成14年に法人化され18年目を走っています（本来、「迎えています」という文言を用いると思えますが、「走っている」という表現の方が確だと思えます）。法人組織は、6年が1計画期間であり、本年度は第3期中期目標・中期計画期間の4年目になります。

教育学部、次の時代へ

す。実は、この4年目が重要で、その評価結果が次の令和四年から始める第4期中期目標・中期計画期間の方向性、すなわち「次の時代」の生き方に大きな影響を与えます。そして、教育学部も「次の時代」の議論を始めています。

このような中、学部経営を考える上で様々な課題への対応が必要になってきています。昨今、新聞等では、国立大学の組織再編のニュースが度々報道されています。大学規模では名古屋大学・岐阜大学の法人化、教員養成等では群馬大学と宇都宮大学の教員養成協同教育課程の設置等、具体的な動きがあります。本教育学部の方

向性としては、この第3期中期目標・中期計画期間中に展開した「教員養成系学部への特化」「地域協働型教員養成の促進」等の教員養成機能の強化、「教職大学院の設置・拡充」による教員研修機能の強化、「校長常勤化によるガバナンス改革」をはじめとした附属学校の教員養成・研修のための

実践力の強化を基盤に、今後は、弘前大学全体の教員養成のエンジンとして、地方総合大学の教員養成・研修機関モデルとなることが肝要だと考えます。

同窓会の皆様には、日頃から物心ともに温かいサポートを頂き、この場をお借りして心より感謝申し上げます。特に、学生の地域へ出たの実習や教員就職に関わる支援等は、学生はもとより教育学部の教員にとっても教育活動の展開において心強い後押しです。上述したように、教育学部は、「次の時代」に向かって動き出します。あらためて、「ご指導・ご支援の程、よろしくお願いたします。」



いじめを憂える

同窓会長 相馬 正栄
(昭和40年卒)



晩秋の岩木山

三三件で、過去最多となったことがわかった。しかもいじめが確認された全国の学校の八〇・八パーセントにも上り、多くの学校でいじめ対策が深刻な問題となっているのです。

私は、いじめに対処するには、教師の問題を解決してやろうとする気構えと、子どもや保護者との信頼関係がなければ解決できないと思っていたが、二〇一九年十月五日、一人の教師が同僚四人の教師に激辛カレーを食べさせられたり、関節技をかけられたり、熱湯の入ったやかんを顔につけられたりと、五十種類以上の暴行や嫌がらせの被害を受けたという前代未

だ。児童・生徒を取り巻く教育問題は、以前からの校内暴力、体罰、不登校、無気力、学業不振と続き、最近では児童虐待やインターネットを悪用した様々な問題が生じてきました。また近年、少子高齢化・人口減少社会、情報通信の進歩や国際化の進展という、複雑で急激な変化が子ども達の心にストレスを与え、そのことがいじめをはじめ不登校、暴力行為などの社会問題として現れてきたともいわれています。



雪吊りの頭飾り (弘前公園)

聞の出来事で、大きなショックを受けました。全く学校の信頼は失墜してしまいました。

私は、いじめは、どのような社会でも起こりうるもので、なかなか解決できることでもないと思っていますが、いじめを放置すると学校は機能しなくなってしまうます。将来の日本を背負っていく子ども達を健全に成長させ、自立した大人に成長させるための教師の力が必要なのです。今の教師の採用試験では学力を重視しているようですが、学力以上に人間味に溢れた魅力的な人物をお願いしたいものです。教師の力量が問われているのです。

皆さん難しい問題ではあるが、いじめをやめさせることの出来る子ども達、いじめに打ち勝てる子ども達を育成していこうではありませんか。



プロテオグリカンと氷頭

弘前大学名誉教授

加藤陽治

最近、新聞やテレビで「プロテオグリカン」(以下PG)という物質名を目にする機会が増えたように思います。このPGはコアタンパク質に、複数の糖鎖がブラシ状に共有結合した糖タンパク質の一種で、コラーゲンやヒアルロン酸とともに軟骨、皮膚、腱、など動物組織に存在します。その役割は皮膚の水分保持、関節の潤滑作用や緩衝作用などです。二〇〇一年に弘大(医)の(故)高垣教授により、郷土料理「氷頭なます」の調理法(サケ頭部の軟骨部分を薄切りにし、食酢に2晩ほど漬けた後、細切にした大根、人参、昆布、ゆずなどとあわせ、さらに合わせ酢をまぜて2日程度置く)をヒントにサケ鼻軟骨(氷頭)から酢酸でのPG抽出法が開発され、PGの大量生産が可能となり、産業への活用之道が開かれるとともに、炎症性腸疾患の改善作用や上皮細胞増殖因子様作用など様々な生物活性が見いだされました。この酢酸抽出PGが、現在、各種市販商品(主に美容ドリンク、化粧品、サプリメント等)に使用されています。

一方、我々の研究グループは、より安価な食品用PGの調製法やPGの詳細な構造解析に取組み、新たに熱水抽出法を完成させました。熱水抽出物中には、サケ鼻軟骨中での存在形態に近いヒアルロン



サケ鼻軟骨の利用

酸(コラーゲン)PG複合体が豊富に含まれることや、含まれるPGは酢酸抽出PGより分子量が大きいことを、生化学的分析と原子間力顕微鏡観察で明らかにしました。さらに、ヘアレスマウスを用いた分子量の異なるPGを連日経口投与して、紫外線を連日照射する光老化実験を行うと、分子量が大きいPGほど、光老化抑制効果が高いことがわかりました。この結果を踏まえ、サケ鼻軟骨熱水抽出物の経口摂取による日焼け効果を、ヒト臨床試験により検証しました。サケ鼻軟骨熱水抽出物を一日当たり四〇〇mg(熱水抽出PGとして一六九mg)、8週間経口摂取すること、紫外線によって皮膚が黒くなる日焼けを抑制し、紫外線による

皮膚のダメージを軽減させる効果があることがわかりました。効果メカニズムは、体内に吸収されて代謝することに依る効果ではなく、腸管内での免疫を介した抗炎症作用であると考えています。さらに、動物実験で熱水抽出PGが、骨密度を増加させ、破骨細胞活性抑制効果があること、細胞実験で女性ホルモンの一種であるエストロゲン様作用を有することなども明らかにしました。

このように、サケ鼻軟骨(氷頭)



ありがとう教育学部

教育学部教育保健講座

教授 小玉正志

教育学部に就職して41年、弘前大学の学生期間の4年間を加えると45年弘前にいることになりました。人生の多くを素敵な弘前で過ごすことができました。

教育学部教員として、一番印象に残っているのは、附属幼稚園の園長を4年間勤めた事です。一生の宝物になる体験をしました。

・誰にでも挨拶ができるようになった。

園長になる前と園長最初の頃は、他人に挨拶することは、少し気恥ずかしくはつきりとした口調で言うことができませんでした。園長が「おはようございます」と元気よく挨拶すると子ども達からも元気な「おはようございます」が帰って来ます。様々な場面で挨拶ができるようになり、子ども達から沢山の元気をもらえま

には、われわれの健康維持に種々効果をもたらすPGが含まれていますが、氷頭の食材としての利用は主に「氷頭なます」に限られております。氷頭をPG供給材料とするだけでなく、下処理と加工を加えることで新たな食素材として各種料理へ利用することも提案「氷頭美味しい食べ方ハンドブック、2015年」しております。地域食材の活用方法として地産地消を推進するとともに、皆様の健康維持に貢献出来ればと思っております。

した。

・話を短く簡潔にできるようになった。

園児は3歳から5歳の子どものので、学生のように話を理解してくれません。4年間の園長のお話の変化について、附属幼稚園先生のご感想を述べます。(一)内は筆者の感想です。最初のお話は、大学の授業の様で難しい言葉が多すぎましたね。(いつもキラキラして



・心が浄化される。

純粋な子ども達に接していると、とても心が晴れやかですがすがしい気分になりました。年中から入園してきた子どもですが、お母さんと離れるのがつらくて、毎日、悲しそうに泣きながら園に入ってきています。あるとき、あまりにかわいそうだったので後ろからキユツとハグしました。その時から、何ヶ月も玄関に座りハグをまつようになりました。あるとき、ハグをしなくても園に入るようになりました。「成長したんだな」、少し寂しくもあり、うれしさもありました。園長を辞めた後、たまたま、幼稚園のそばで、その子にあつたら、遠くから「園長先生！」と走ってきて、何も言わずギューッと抱きついてくれました。お母さんが、「園長先生がいなくなつてから、カエルに園長先生の名前を付けて育ててるんですよ。」との言葉がありました。

感動!

教育は子ども達にとつてとても大事です。教育していると思つている先生が、本当は子ども達のおかげで成長させてもらっています。



私は教師のひよこになりたい

黒石市立中郷中学校
教諭 菊地 さくら
(平成31年 学校教育教員養成課程卒)

私は、今学校の職員室のパソコンに向かい、かれこれ一時間半も悩み苦しんでいる。なぜならこの文章のお題である、「教員のやりがい」を、教員となり一年も経っていない若僧の私が書いていいのだろうか、いやいや、そんなことより、まず自分はこの約十ヶ月で何を学び、得てきたのだろうかと自問自答を繰り返しているからである。とにかく書き進めなければならぬので私なりに約十ヶ月を振り返ることにする。

四月、私にとっての社会人デビュー。最初の一週間は、たくさん会議があったと記憶している。まず、教員になって一つ目の衝撃は、この職員会議だった。今までそこそこの成績で大学まで進み、大学のサークルやゼミも人並みに熟してきたはずなのに、不思議なことに職員会議で話し合っている内容が全く分からないのだ。文字通りの「意味不明」である。入学式などの行事の話や事務手続きについてなどの説明を頑張っているつもりなのに、あまりにも想像ができないために話についていくことができなかった。「・やばい」と焦る気持ちが表情に出ていたのか、同じ学年団の先生方から「何でも分からないこと



研究授業風景

質問して大丈夫だよ」と声をかけられホッと安心したのを覚えている。同僚の先生方は、十ヶ月経った今でも私のくだらない質問や話に対して耳を傾け、優しく答えてくれる。本当になんて優しい先生方に恵まれたのだろうかと常に感謝の気持ちが絶えない日々である。(ここまで職員会議について随分と語ってしまった。)

ときのことを残念ながらほとんど覚えていない。覚えているのは、若い女の先生が担任だ、というだけでキーキヤー、ワーワーはしやぎ、きらきらとした目でこちらを見ていたということだけだ。そんな生徒も今では、特に朝は死んだような目でこちらを見て、眠い・だるいと口にするようになってしまった。テンションの低い生徒をいかにハイテンションにするかを試行錯誤する日々である。十ヶ月を振り返り(四月しか振り返っていないが)第一に思うことは、生徒はすごいということである。常に驚かされてばかりだ。運動会の長縄では、練習の時五回しか跳べなかったのが当日凄まじい団結力を発揮し二十二回も跳べたり、私の研究授業の時には普段の三倍もの集中力を発揮し予定よりスムーズに授業が進んでしまったり、毎日ゲームばかりで授業中寝ていた生徒が急に「わあ生まれ変わるわ」と言って勉強を頑張りはじめたりといった調子だ。常に「いいこと」だけではないが、時々感じることもできる喜びが教師のやりがいなのだと思う。

何はともあれ総じて言えば、私は教師という職業にやりがい・面白さを感じている。それは、今目の前にしている生徒のおかげである。その生徒のためにも自己研鑽に努め、できるだけ早く教師の卵からひよこになりたい。そして、今担任している生徒三十四名を無事に卒業させることが私の使命だ。

令和元年度 弘前大学教育学部・同窓会懇談会

令和元年度の懇談会は十月二十四日(木) 十五時から弘前大学創立五十周年記念会館にて開催されました。

教育学部からは戸塚学部長以下十四名の教職員が、同窓会からは相馬会長、木村顧問、鈴木顧問以下役員、各支部長十九名が出席しました。

学部長、同窓会長のあいさつの後、大高副学部長の司会進行で進められました。

学部からは学部の現況について学部長より説明がありました。学生の定員が二百四十名から百七十名になって四年目、来年度からは百六十名になるとのことでした。十名が減るわけですが医学部に「心理支援科学科」が新設され心理の専門家を養成し学校現場への支援も目指しているようです。学生の卒後の就職・進学状況、入試改革(AO入試拡充、面接試験の導入等について)、教職支援室の充実(五人体制で延べ三千八十三名の学生へ年十回支援、全学対応等について)、教職大学院が三年目に入り一層の充実(令和二年からは教職大学院を改組し入学定員を十八名に増やしコースを三コースに変更)、附属学校の校長の常勤化(小・中・特別支援学校の校長を全国公募、小は高橋眞弓氏、中は伊藤隆氏、特別支援は川村康弘氏)するなどについて概要



説明がありました。世の中が大きく変化している中で、大学そのものが、またその内容が大きく変化しており学部の先生方も大変な苦労をされているようでした。その後、同窓会からの質問事項に対する説明がありました。学部長の説明とダブル内容がほとんどで補足的に担当の先生方から説明がなされました。その他疑問点も出されましたが、おおむね納得されたものと思います。懇談会終了後会場を学生食堂のスクーラムに移し懇親会が開かれ大いに話が弾みました。普段学部の先生方とお話しする機会ほとんどありませんのでこの機会は大変有意義だと思いました。

